

マレーシアのマスメディアは政府や与党の干渉を受けやすく、中立性・独立性を欠くとしばしば評価される。そのためか、表になかなか現れない「真実」を暴くことで公正を世に問うような報道は、あまりみられない。

知識探訪

多民族社会の横顔を読む



【第6回】
篠崎香織（北九州市立大学准教授）

華語新聞から読むマレーシア

だが、表にみえる事柄を丹念に拾い、自分の代表者の仕事ぶりを観察する材料を提供する報道が、日々なされている。それは特に、華語（中国語）で書かれた日刊紙（以下、華語新聞）に顕著である。

マレー半島部では、民族の代表者を通じて政治に参加する仕組みが構築されてきた。ある個人が自分の利益が守られていると判断する基準は、所属する民族が

あった。他方、華語新聞では星洲日報や中国報などが、撤去作業中に作業員・警官と住民が激しく衝突し10人が負傷したと大きく報じた。その後も約10日間、住民の当惑や悲しみ・怒りの声、野党議員が国会でこの問題を取り上げるよう動議を出したが却下されたこと、マレーシア・インド人会議（MIC）の介入を求める論説などが、複数の新聞に掲載された。

星洲日報の鄭丁賢
(Tay Tian Yan) 副編集長は、しばしば政府を痛烈に批判する。28日付同紙に

ジャーナリズムは民族メディアにあり 他民族の痛みに敏感、“タブー”の政権批判も

政府から正当な扱いを受けているかに置かれる。また、ほかの民族の扱われ方を観察し、自分たちがどう扱われ得るかを測る。華語新聞は主にそ

マレーシアにおける日刊紙の言語別1日当たり平均発行部数（08年1月1日～6月30日）

	全国合計		半島部		サラワク州		サバ州	
	平日版	日曜版	平日版	日曜版	平日版	日曜版	平日版	日曜版
英語新聞	889,343	650,243	739,474	494,203	68,097	72,647	81,772	83,393
マレー語新聞	920,179	1,301,255	869,742	1,285,747	44,237		6,200	7,941
華語新聞	1,163,414		909,308		177,634		76,472	

Audit Bureau of Circulations Report, Circulation Figures for the period ending 30 June 2008 に基づき筆者作成。英語新聞8紙、マレー語新聞5紙、華語新聞13紙を含む。英語新聞とマレー語新聞は、日曜日とそれ以外でタイトルが異なるものが多く（例えばNew Straits Times の日曜日のタイトルはNew Sunday Times）、個別に集計されている。

した視点から、観察材料を提供している。

07年11月25日にクアラルンプール（KL）で発生したヒンドラフ（Hindu Rights Action Force、Hindraf）支持者と治安当局との衝突を例に取る。

英語新聞やマレー語では関連報道が21日ごろから唐突に現れ、インド系住民が突然怒りを表明したような印象を持つ。これに対して華語新聞からは、怒りを招く出来事が直前に起こっていたことが分かる。

06年から07年にかけて半島部各地で、不法占拠地の強制撤去を行う際にヒンズー寺院が破壊されるケースが多発し、インド系住民が不満を抱いていた。ヒンドラフはそうした声を取りまとめ、州や市の首長や関係省庁、司法機関などに嘆願書を送るなどしていた。そのような中、07年10月30日にスランゴール州シャアラムで、作業員や警官300人による大規模な不法占拠地の撤去が行われ、ヒンズー寺院が取り壊された。

英語新聞では唯一スターが、激しい口論もみられたがそれ以上の事態には進展しなかったと報じたのみで

は、ヒンドラフの集会は政治的陰謀であり黒幕はアンワルだとする閣僚の発言記事のすぐ隣に、政府幹部は状況をまだよく理解しておらず、発言は迷走しており、UMNO所属閣僚の発言には思わず噴き出してしまおうとする鄭副編集長の論説が掲載された。同副編集長は、ヒンドラフは野党と協同することもあるが一定の距離をおき、独自に草の根の活動を展開し、それによってインド人の支持を得たのだと指摘する。

国境なき記者団による報道の自由度ランキングで、マレーシアは173カ国中132位。だがこの数字は、マレーシアのジャーナリズムの質そのものを示す数字では決してない。

【執筆者プロフィール】1972年、千葉県生まれ。東京大学大学院総合文化研究科修了。学術博士。在マレーシア日本国大使館専門調査員などを経て現職。専門はマレーシアの地域研究。マレーシア国内の民族間関係や、マレーシアからの、またはマレーシアへの人の移動を研究している。